

がんセンターたより

第 3 期 がん対策推進基本計画について

企画情報部長 金森 平和

これまでの経緯

昭和 56 (1981) 年以来、がんは死因原因第 1 位の座に君臨し、平成 27 (2015) 年には年間 37 万人ががんで亡くなり、生涯のうちに約 2 人に 1 人ががんに罹患すると言われるようになりました。

平成 18 (2006) 年 6 月、がん対策の一層の充実を図るためにがん対策基本法が成立し、平成 19 (2007) 年 4 月に施行されました。同年 6 月には、がん対策の総合的かつ計画的な推進を図るために、第 1 期の「がん対策推進基本計画」(以下「基本計画」)が策定されました。第 1 期 (2007 ~ 2011 年度) の基本計画では、「がん診療連携拠点病院」の整備、緩和ケア提供体制の強化および地域がん登録の充実が図られました。第 2 期 (2012 ~ 2016 年度) の基本計画では、小児がん、がん教育およびがん患者の就労を含めた社会的な問題についても取組がなされ、さらに、取組が遅れている分野について一層の強化を図るため、2015 年 12 月には、「がん対策加速化プラン」が策定されました。

しかしながら、2007 年からの 10 年間で「がんの年齢調整死亡率 (75 歳未満) を 20% 減らす」目標は未到達であり、医学の進歩や社会の変化に対応した基本計画の見直しが必要になりました。

第 3 期がん対策推進基本計画の概要

「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」ことを全体目標に掲げた第 3 期基本計画の実行期間は、平成 29 (2017) 年度

から平成 34 (2022) 年度までの 6 年間を目安とし、具体的には分野別に 3 つの柱からなっています (図参照)。

1. 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 (がんを知り、がんを予防する)
2. 患者本位のがん医療の実現 (適正な医療を受けられる体制を充実させる)
3. 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築 (がんになっても自分らしく生きることのできる地域共生社会を実現する)

注目すべき取組として、個人のゲノム情報に基づいて、個人ごとの違いを考慮したゲノム医療 (その人の体質や病状に適した医療を行うこと) の体制作りのために、がんゲノム医療中核拠点病院の整備を掲げています。また、ライフステージに応じたがん対策として、特に課題の多い小児・AYA 世代や高齢者のがんへの対策も重点になっています。

がん対策の実効化に向けては、国、地方公共団体、関係者等が連携を図りつつ、一体となって努力することが重要と記され、がん対策を総合的かつ計画的に推進するためには、都道府県によるがん対策計画の策定、がん患者を含めた国民の努力、患者団体等との協力、必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化等が挙げられています。神奈川県において当センターの果たすべき役割は大きいことを改めて認識し、県民のためのがん医療の提供に向けて神奈川県と共に努力を続けたいと思います。

第3期がん対策推進基本計画(概要)

第1 全体目標

「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」

①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ②患者本位のがん医療の実現 ③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

第2 分野別施策

1. がん予防	2. がん医療の充実	3. がんとの共生
(1)がんの1次予防(※) (2)がんの早期発見、がん検診(2次予防) (※)受動喫煙に関する目標値等については、受動喫煙対策に係る法案を踏まえて別途閣議決定する予定。	(1)がんゲノム医療 (2)がんの手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法 (3)チーム医療 (4)がんのリハビリテーション (5)支持療法 (6)希少がん、難治性がん(それぞれのがんの特性に応じた対策) (7)小児がん、AYA(※)世代のがん、高齢者のがん(※)Adolescent and Young Adult: 思春期と若年成人 (8)病理診断 (9)がん登録 (10)医薬品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組	(1)がんと診断された時からの緩和ケア (2)相談支援、情報提供 (3)社会連携に基づくがん対策・がん患者支援 (4)がん患者等の就労を含めた社会的な問題 (5)ライフステージに応じたがん対策
4. これを支える基盤の整備 (1)がん研究 (2)人材育成 (3)がん教育、普及啓発		

第3 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 関係者等の連携協力の更なる強化 | 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化 |
| 2. 都道府県による計画の策定 | 6. 目標の達成状況の把握 |
| 3. がん患者を含めた国民の努力 | 7. 基本計画の見直し |
| 4. 患者団体等との協力 | |

神奈川県がん診療連携拠点病院講習会 開催報告

2017年11月25日に第1回神奈川県がん診療連携拠点病院薬剤師講習会を開催いたしました。今回の講習会の目的は神奈川県におけるがん医療に携わる薬剤師の現状や課題を把握することと、神奈川県で求められるがん医療に従事する薬剤師の資質向上を目指すことの2点です。

前者に関して薬剤科の原田知彦より神奈川県内にはがん関連認定薬剤師131名がいるが連携が十分でないのが現状で、継続したがん薬物療法の質の向上(抗がん剤の投与管理・副作用対策等)のためには薬剤師のネットワーク作りが必要であり、そのために県内のがん関連認定薬剤師で構成する

KOPU(Kanagawa Oncology Pharmacist United)の立ち上げが提言された。

後者に関して、埼玉医科大学総合医療センター薬剤部の佐野元彦先生より、先生が中心となって立ち上げ活動している埼玉がん薬物療法研究会(SSOP)の活動内容について講演をいただきました。SSOPは臨床、教育、研究の3本柱で活発な活動を行っており、今後我々が目指すべき良い目標となりました。

薬剤師が患者さんに対して何が出来るかを考えるため、今後も継続的に講習会を開催していきたいと思っております。

(薬剤科長 岸本有佳)

米国臨床腫瘍学会 消化管癌シンポジウム (ASCO-GI 2018)

消化器外科 熊頭 勇太

学 会 報 告

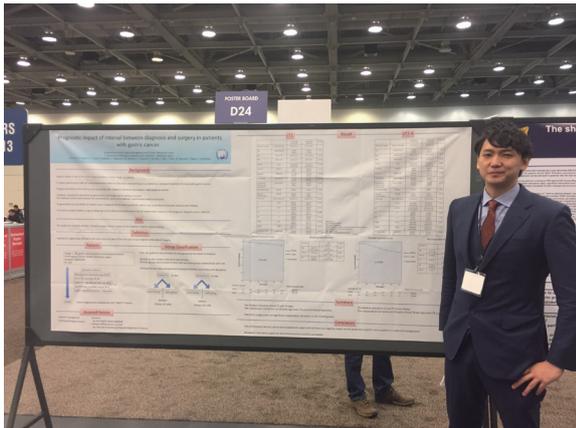
欧州臨床腫瘍学会 (ESMO Asia 2017)

レジデント 原 健太郎

1月18日から20日まで米国サンフランシスコで開催された ASCO GI に参加し、「Prognostic impact of interval between diagnosis and surgery in patients with gastric cancer」という演題を発表致しました。初めての国際学会であり、新鮮で興味深い知見や慣習の数々に触れることができました。米国での学会にも関わらず、日本の演題数の多さとその良好な成績に、あらためて日本の医療レベルの高さを感じました。

また、韓国、シンガポール、オーストラリアの第一線で活躍される医師と同席する機会も頂き、ユーモラスで博識な国際医師との交流は深く記憶に残りました。

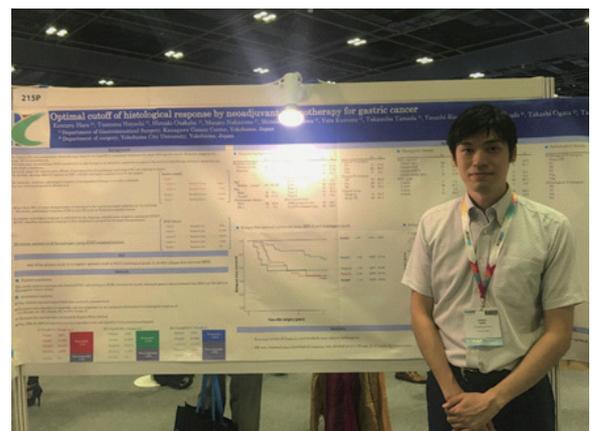
今回の国外出張は、日々の診療のスキルアップ、さらには向上心、モチベーションをあげる非常に良い経験となり、この機会を与えて下さった吉川院長補佐を始め、胃食道外科、他がんセンター関係者各位に感謝申し上げます。



2017年11月17日から19日まで、シンガポールで開催された European Society for Medical Oncology (ESMO) Asia 2017 Congress に参加させて頂きました。

『Optimal cutoff of histological response by neoadjuvant chemotherapy for gastric cancer』という演題でポスター発表をさせて頂きました。初めての国際学会であり、その雰囲気を感じることができました。また、英語を母国語としないアジア圏の若手医師のオーラル発表などは、大変刺激になりました。学会で得た知識やモチベーションを今後の臨床・研究に活かしていきたいと思えます。

日常業務も大変お忙しい中、学会参加を快諾頂き、また準備の段階から丁寧にご指導して下さいました胃食道外科の先生方に感謝致します。



神奈川県立がんセンターでは **ドラマ や 映画の撮影協力** を行っています！！

- ・「愛してたって、秘密はある。」 2017.7 月期 放送
出演者 福士 蒼汰、川口 春奈、鈴木 保奈美 ほか
- ・「ほんとにあった怖い話 夏の特別編 2017」 2017.夏 放送
- ・「トドメの接吻」 2018.1 月期 放送
出演者 山崎 賢人、新田 真剣佑 ほか
- ・「コウノドリ」 2017.10 月期 放送
出演者 綾野 剛、星野 源、松岡 茉優 ほか
- ・映画「パーフェクトワールド」 2018.秋公開予定
出演者 杉咲 花 ほか



神奈川県立がんセンター 第9回市民公開講座「がんを知る」

2018.1.20 開催

しました

肺がんの今 ～県民ファーストの肺がん治療に向かって～

多くの方々にがんに関する正しい知識を提供していけるよう平成21年にスタートしましたこの講座も、第9回目を迎え、今回は、「肺がんの今～県民ファーストの肺がん治療に向かって～」として、肺がん治療における様々な療法を取り上げることとなりました。呼吸器内科近藤先生、加藤先生、齋藤先生から、肺がんの健診～診断、抗がん剤・分子標的薬・LC スクラム、免疫治療・治験について、呼吸器外科永島先生から外科治療・胸腔鏡について、それぞれ専門的な立場からの講演を行いました。



終了後のアンケートでは「ネットや本では得られない、最新のデータをわかりやすく説明してもらえた」「新しい取り組みを聞いて有意義だった」などの声をいただきました。寒い1日でしたが、多くの方々にご参加いただき、大変有意義な講座となりました。(総務課)



造血細胞移植コーディネーター HCTC (hematopoietic cell transplant coordinator)

7W 病棟 主任看護師
平野 弘美

平成24年度から造血細胞移植学会において造血細胞移植コーディネーター(HCTC)の資格認定制度が発足され、私は、平成29年3月に学会認定を取得しました。HCTCは、造血細胞移植の透明性、安全性、公平性、倫理性を確保し、より多くの方が高い水準の造血細胞移植医療の恩恵を受けることを可能とするために誕生した新しい専門職です。造血細胞移植は、輸血部、放射線科、歯科口腔外科、リハビリ、ソーシャルワーカーなど院内各部署との連携に加え、骨髄バンク、臍帯血バンクなど院外との迅速かつ円滑な調整が必要です。HCTCは、患者、ドナー及びそれぞれのご家族に対し、初回外来受診時より、退院後まで継続的な支援をしています。看護業務との兼務であるため、HCTC

として患者、ドナーの中立的立場に立つことが難しい面がありますが、医師、病棟スタッフ、関連部署の方々のご支援をいただきながら、活動させていただいております。今後とも、ご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



化学療法を乗りきる

おうちごはん レシピのご紹介

当センター HP にレシピ掲載

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/event/eiyoryouri.html>

がんの治療の一つである化学療法治療を継続するためには気力、体力等様々な力が必要になります。気力、体力を維持するためには食事でも重要な役割を担いますが、がん治療中は、味覚の変化や口内炎、消化管症状等食欲に関わる症状が副作用として出現することが多くあります。そんな状況の中でも食事を継続し体力の温存、治療の継続ができるよう願ってレシピを提供しています。

化学療法を乗り切るおうちごはんレシピのコンセプトは「簡単につくれること」

体調が悪くて動きたくない時や買い物ができない時でも、コンビニの食材やおうちにあるストック食材を使って簡単に作れるものをレシピにしました。



このレシピ集は患者さんの困っていることや食べやすいもの等、患者さんの意見を参考に作成しています。症状がある時の即時の工夫や具体的な対策例を挙げ、それに対応したレシピを紹介しています。副作用があってもあきらめず「食べる」に繋いでいただきたいと願っています。(栄養管理科 藤井理恵薫)

春のおすすめ
メニュー
一例ご紹介



菜の花とかば焼き缶の簡単ココット



栄養量(1人分)
エネルギー200kcal/蛋白質12.2g
脂質14.5g/炭水化物5.2g/塩分0.5g

乗り切りPOINT

マヨネーズの油は比較的消化が良く、料理をまろやかに仕上げることができます。食欲不振時は油が敬遠されがちですが、少量でエネルギーアップが期待できる食材です。料理の隠し味に使うことで見た目の量を変えずにおいしくエネルギーアップができます。

☆材料(1人分)	
菜の花	40g
卵	1個
豆乳	大さじ2
★マヨネーズ	小さじ2
☆さんまのかば焼き(缶詰)	1/4缶(20g)



食欲
不振

胃不
快感

消化器
病後

☆かば焼き缶は、そのままでも、料理の素材としても活用できます。買い物が億劫な時に常備してると便利です。

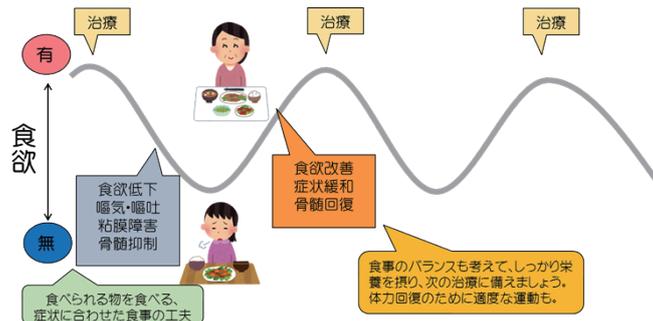
☆作り方

- ① 菜の花を下ゆでし、2cmくらいの長さ切る。
- ② ココット皿に卵を溶き、豆乳・マヨネーズを加えよく混ぜる。
※ココット皿がない場合は、深めの小鉢でも応用可
- ③ ①の菜の花、さんまのかば焼きを②に加え、軽く混ぜる。
- ④ 電子レンジで約3分加熱し、全体に火が通ったらできあがり。

治療中の食べ方のポイント



化学療法中は、治療のタイミングに合わせた食べ方の工夫が大切です。副作用の症状がある時は症状に合わせて食べられるものを、また症状が落ち着いている時は、バランスに配慮した食事を積極的に摂るよう心がけましょう。



防災訓練を実施しています

神奈川県立がんセンターでは、万一の地震や火災に備え、「防災対策会議」を設置し、災害対策を行っております。昨年 11 月に実施した訓練では、地震による病棟からの火災発生を想定して、ストレッチャーや車椅子での避難誘導を行いました。



2017. 12. 14
クリスマスコンサート
開催しました♪



第 1 部



第 2 部



★ボランティア会 ランパス★ による
3月・4月
木曜ミニコンサート予定表 ♪

♪ 時間：午後 2 時～（約 30 分）♪

3/1	ヴァイオリン ピアノ	遠藤 百合 山本 絵里
3/8	アルゼンチンタンゴ	小原 みなみ
3/15	声楽	高津 佳
3/22	アコーディオン	園田 容子
3/29	ピアノ 声楽	横林 純子 相馬 奈苗
4/5	ピアノ	藤牧 優里
4/12	調整中	
4/19	ピアノ	中村 美雪
4/26	ヴィオラ	横井 和美

当日演奏者の都合により変更になることがあります。

編集後記

2月の別名である如月の由来には諸説ある。まだ寒さが残っているの、衣(きぬ)を更に着る月であることから「衣更着(きさらぎ)」、逆に、陽気が更に来る月なので「気更来」という説もある。季節の感じ方は人それぞれだが、がんを患っている人を思う医療者の気持ちは同じである。また、3月の別名は弥生だが、その由来は、草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月(きくさいやおひづき)」が詰まって「やよひ」になったという説が有力だ。年度替りは出会いと別れの時期でもあり、当センターも新たな気持ちで再出発したい。

(企画情報部長 金森平和)

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241-8515 横浜市旭区中尾 2-3-2

TEL 045-520-2222 (代表)

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

